

は、明治日本の産業革命遺産の世界遺産登録への期待が高まっている年であり、制定するよい機会であると考えている。市民の皆様が親しまれ、愛着を感じてもらうことが重要であるため、アンケート調査を実施するなど準備を進めたい。



▲新しい仲間!!
ヒゲペンギン!

創生自民

市長の政治姿勢

問 高齢化や人口減少が避けられず、さらに財政も厳しさを増す状況において、市長の3期目の抱負を伺いたい。

答 私の使命は長崎の次の時代の基盤をつくることとの考えのもと、3期目は、これまで取り組んできた、13の重点プロジェクト全てを軌道に乗せたいと考えている。また、これまで進めてきた本市の強みを活かしたまちづくりをこれからも進め、世界を身近に感じることができると世界都市、長崎に合った暮らしやすさを自分たちでつくる人間都市としての基盤をしっかりとつくりつついく4年間にしたい。

浜町再開発事業

問 事業の進捗状況と、今後の支援や取り組みについて伺いたい。

答 現在、浜町地区では「長崎浜市まちづくり構想」に基づく取り組みをさらに具体的に進めるため、「浜町地区市街地再開発準備組合」が設立され、再整備に向け積極的な検討が進められている。今年度は国と市の支援により、再開発事業に関する推進計画の策定に取り進むこととされている。本市としては、事業の進展に合わせ、必要となる計画策定への助言や事業費の助成など、継続的な支援を行うとともに、関係部局と連携し、サポートしたいと考えている。



▲長崎浜市まちづくり構想
(※このイメージ図は、構想の段階で作成されたものであり、地権者などの同意を得たものではありません。)

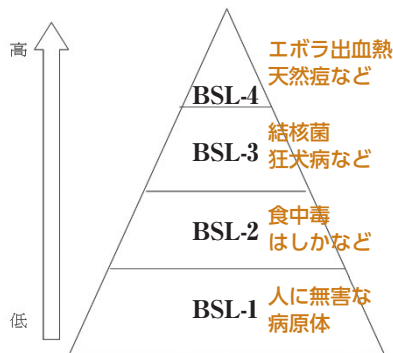
日本共産党

BSL-4施設の考え方

問 坂本キャンパスへのBSL-4施設建設は、近隣自治会の住民の多くが反対しているため断念すべきであり、

大学、県と結んだ協定も破棄すべきと考えるが、市長の考えを伺いたい。

答 この施設は、国内の安全・安心に資するだけでなく、世界に貢献する可能性があり、市のまちづくりの方向性にも合致するものと考えている。しかし、危険性の高い病原体を扱うため、その設置は「安全性の確保」と「市民の理解」が前提である。今回締結した「感染症研究拠点整備に関する基本協定」は、大学、県と連携し、課題の明確化と解決にあたっていくこと等を定めたものである。施設に対し、さまざまな意見があることは十分承知しており、今後、市民の安全・安心を守る立場から、課題解決へしっかりと意見も申し上げていきたい。



▲BSL (バイオセーフティレベル) 分類
BSL-4 施設とは、最も危険度の高い病原体を扱うことができる施設です。

ながさき住みよ家 リフォーム補助制度の継続

問 この制度は、施主や事業主に喜ばれ、市税収入にも貢献していることが

ら、来年度以降の継続と交付決定までの期間短縮を図っていただきたい。

答 平成23年2月から、緊急経済対策として開始し、過去3年で60億円以上のリフォーム工事発注に繋がるなど、一定の成果が得られたと考えている。事業継続については、今後の経済状況等を見極めながら判断したい。また、交付決定までの期間については、審査などに要する時間の短縮に努めたい。

チーム2020

旧公会堂の活用策

問 ブリックホールの稼働率が上昇し、今以上の受入が厳しいのであれば、暫定的に旧公会堂の活用ができないのか。また、本市の戦後の取り組みを伝える施設として活用する考えはないか。

答 建物や設備が老朽化しており、特に設備については多額の費用を投じて大規模な機器の更新を行わなければ、暫定的な活用は困難な状況である。そのため、旧公会堂は解体し、芸術文化の表現の場として、高いレベルの音楽や演劇の公演に対応できる機能を備えた、誰にとっても使いやすい、文化施設を新たに整備する方針である。建設当時の国際平和都市としての発展を願う精神は、時代に合った新しい施設に形を変えながらも未来に引き継いでいきたい。